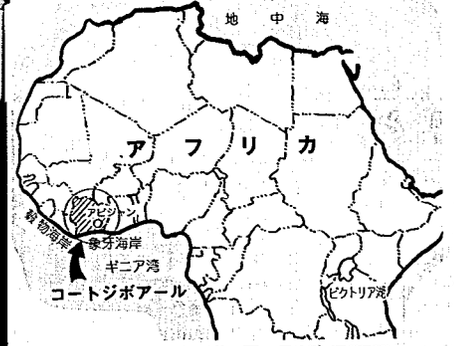

YOUNG MAN OVER THE SEA③

国際感覚を養う若者たち

今号では、総務庁が主催する青年海外研修に派遣され、アフリカ諸国を訪問してこられた佐藤朋子さんの海外体験をリポートでご紹介します。

地球の反対にも友達が

下興野町　佐藤朋子

雄大さに息飲む　アフリカ大陸

日本の反対側の世界をこの目で見てみたい、職種も様々な若者が全国から十人（この派遣団に）集まった。ギニア湾に面したコートジボアール共和国は、一九六〇年、フランスから植民地としては珍しく平和的に独立した国だ。面積は日本の約〇・九倍、人口は日本の十分の一である。

経済的首都であるアビジャンは、アフリカのマンハッタンと呼ばれるくらいの大都市で、高層ビルの中を高速道路が走りぬける。車はほとんど日本車。街には盆栽屋もあった。

マンという田舎町へは国内線で移動した。が一旦飛び立った飛行機がエアコンの故障でサウナ状態のまま再び空港へ戻る。待つこと六時間。やっと搭乗した機内は自由席で、操縦室も丸見え。空からアフリカ大陸を見た時、あまりの雄大さに息を飲んだ。サバンナのうっ蒼とした草原は、人間よりも遙かに深い歴史を物語っていた。自然に対しとても謙虚な気持ちになり、地球に抱かれて全ての生き物が生きている事を実感した。着陸間近、操縦席前方へ目をやると、確かに高度は下がっているが飛行場がない。ん？なんと滑走路は赤土。どっしんー!!これこそアフリカと嬉しくなる。こんな所ではお揃いの団服なんて似合わない。

上：もぎたてオレンジの香りが、朝の街にとても新鮮―アビジャンの街角。
左上：ボタンに糸を通して引っぱる。日本と同じ遊びだ―西部ビヤンクマ村にて。

コロゴ市長にお茶のお点前を披露

北部のコロゴは、手描きの布絵や子供たちのパンサーダンスで有名な素朴な町だ。コロゴ山登山はハードスケジュールからカットされそうになったが、地元の人の強い勧めで実施。背の高さ程もある草をかき分けながら道無き道を進む。途中、山の主である虫やとかげ様にお会いする。「お邪魔します。寄せて下さい」皆、無言で登ること四十分。頂上では大歓声が上がった。なんと三六〇度の大パノラマなのだ。何も隔てるものもなく、地平線がぐるりと見渡せる。来て良かった。ジャングルの樹木のように、お腹の底まで光合成した気分であった。コロゴ市長主催のレセプションには全員法被や浴衣で出席。私はお茶のお点前を披露した。召し上がった市長さんは「栄養がありそうですね」「はい、ビタミンたっぷりです」お土産においてきたお抹茶は飲んでいらっしゃるかしら？

世界平和を強く意識

庶民は、新津の市によく似たマルシェで生計を立てている。アビジャンのトレッシュビルのマルシェは、貧富の差が激しく当然の物盗りが横行、足の踏み場もない程のディスプレイと独特な臭いとで、とても独りでは歩けない。日本の招へい事業で友達になった人たちが親切に同行してくれた。帰国間際に聞いたのだが、あの日は学生紛争が起こり軍隊が武器を持って出動した非常に危険な日だったそうだ。私たちは気づかなかったが、私服のガードマンが一日中私たちを守ってくれていたのだという。黒人の友達の温かい心遣いに、涙の出る思いだった。

私たちの地球は広く丸く、日本の反対側にも友達がいるということ、私たちと違う環境で生活しているということをいつも意識していたい。恵まれた環境の中で、私たちは平和に暮らす努力をし、そして世界の平和を祈りたいと思った。

さて、家族の一員として生活しなければならないのですから、そのホストファミリー選びも大切なことになります。そのためには、信頼できるホームステイあっせん業者を選ぶ必要があります。業者選びのポイントとしては、次の四つがあげられます。

①参加者の納得の得られるホストファミリーの選択を行っていること

②ホームステイの意義などを説明し、無用なトラブルがないように、参加者に十分なオリエンテーションを行っていること

③出発前に、参加者がホストファミリーと情報交換できる期間が十分にあること

④現地での指導・相談体制がしっかりしていて、トラブルが発生したときにすぐ対応してくれること

これから留学を考えている人は、ホームステイを合無しにしないためにも、これらの点に留意してあっせん業者を選ぶとともに、目的を明確にし、十分な事前準備を行うことが大切です。

お買物、ご用命は市内で

肌着・化粧品
資生堂チェインストア
本町2丁目　マツヤ　☎(22)0418 (23)0630
第四銀行が向かい。北越銀行がとなり。

お住まいの水まわり
見直して見ませんか
浴室　キッチン　トイレ……
水まわり増改築専門店
システムショップ　かねみや
本町2　☎24−1630

海外旅行者／ホームステイの留意事項

出発前にこれだけはチェック

旅行や商用、ホームステイなどで、海外へ出かける人が年間で約一千万人になりました。それに伴い、海外で病気になったり、事件や事故に巻き込まれたりなどのトラブルも急増しています。ここでは、海外旅行者の安全対策として、海外で安心して過ごすために加入しておいたほうがよい海外旅行傷害保険と、アシスタンス・サービス（救急サービス）、ホームステイでの留意事項について紹介します。

旅行者　思わぬケガや病気に備える

●海外旅行傷害保険

負傷したり、急病になったりすると治療が必要になります。海外での負傷、疾病の治療費は高額で、しかも、日本のように健康保険の適用もなく、すべて個人負担になります。数百万円以上を要することも、まれではありません。

そんなときのためにも、海外旅行傷害保険がありません。これに加入すると、負傷や疾病に要する治療費の個人負担が、かなり補償されます。

●アシスタンス・サービス

治療費のことばかり頭に浮かびがちですが、忘れてはいけないのが移送費です。

移送費とは、負傷・発病現場から病院まで、患者を移送する費用のことです。重傷・重病の場合は、応急処置をして、さらに十分な治療を受けられる所まで移送することもあります。そのためには、例えば航空機、医師、看護人、移送用医療器具が必要になりますし、その手続きは面倒です。そして、この移送費も治療費と同様に高額なのです。

このようなとき、世界中にネットワークをもっていて、救急サービスを提供しているアシスタンス会社がとても役に立ちます。アシスタンス会社のアシスタンス・サービスに加入すると、諸手続きの代行や、移送費全額負担のほか、事故・病気の際の日本語でのアドバイスといったサービスも受けられるのです。

日本の損害保険会社は、各社ともアシスタンス会社と提携しているので、海外旅行傷害保険に加入すると、その範囲内でアシスタンス・サービスを受けられます。ただ、医療水準の低い地域で負傷・重病になった場合、保険料のほとんどを移送費に費やしてしまうこともあります。そういった地域に行くときには、別にアシスタンス・サービスに加入したほうがよいでしょう。

ホームステイ　信頼できるあっせん業者を

わが国の国際化を背景にして、海外にホームステイ留学する青少年が増えています。それと同時に、受け入れ先の家庭（ホストファミリー）とトラブルを起こし、帰国したという話も多くなっています。

せっかく海外で貴重な体験をするのですから、実りあるものにしたいものです。そのための注意点をいくつか紹介します。

●業者選びのポイント

ホストファミリーはボランティアの場合がほとんどです。ですから、何か手伝ったり、相手の文化や習慣をよく理解するなどして、積極的に家族の中に溶け込むようにしましょう。

お買物、ご用命は市内で

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6−12　TEL(24)5122

銘菓　栗太郎
和洋御菓子司
田家屋
新津市本町四
TEL (22)〇四三〇

銘菓　雪かこい
和洋御菓子司
駿河屋
新津市本町二
TEL (22)〇五四三